

## 1 研究主題

# 子どもがわかる、つながる、やる気ができる授業の創造 ～自ら選び、考える子どもの育成を目指して～

## 2 研究主題について

### ○社会の動向から

新学習指導要領では、アクティブラーニングの視点に立った学習が求められ、主体的で対話的で深い学び等が改訂のポイントとなっている。また、思考力・判断力・表現力等の育成が求められ、言語活動の充実とともに、追究的な学習を行う必要があるとされている。また、近年では、AI産業の発展が目覚ましく、人手に変わって仕事を担う場面も増えている。その様な社会背景の中、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、子どもたちに生きる力をはぐくむことが重要になる。基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに努めることが重視される。さらに、熊本市では、一人一台のタブレット端末が導入され、そのタブレット端末を活用した学習の工夫が求められる。

また本校では、昨年まで、子どもたちの多様な実態に応じた教育の重要性を考え、特別支援教育の視点（焦点化・視覚化・共有化）を生かす研究をしてきた。本年度も特別支援教育の視点を基盤に、「自ら選び、考える子どもの育成を目指して」、子どもたちが「分かる」、「つながる」、「やる気ができる」授業の創造を目指す。

### ○本校の実態から

本校の実態については次のようなことが挙げられている。

#### 【よさ】

- ・友だちや教師へのお手伝いやお助けなど必要とされた時に精一杯頑張ろうとする。
- ・興味・関心があるものについて、深く追求しようとする。
- ・素直に話を聞き、実践しようとするチャレンジ精神がある。

#### 【課題】

- ・考えの根拠を明らかにすることができないので、一部の発言者の意見に流されてしまうことがある。
- ・一つの答えで満足し、なかなか多様な考えに広がらない。
- ・じっくりと考えることが苦手で、すぐに答えを知ろうとする。
- ・基礎・基本的な学習は定着しているが、活用問題を苦手としている。
- ・指定した時間内に考えが浮かばず、次の活動に進まなくてはならないことがある。

## 3 めざす授業像

### ア 『わかる授業』とは

本研究では、わかることの度合いを①学習課題や本時の学習内容に取り組むことができる②個の学びや学びあい活動を通して、学習中の問いに対する答えに納得ができる③自ら学んだことを言語化し、必要に応じて、図表や言葉などの手段を用いて説明できる3つの段階に分けて考える。子どもが学習に対して主体的に学び、わかり続けるためには、子どもたちが取り組む学習課題やその内容について、理解できずに学習が進んでしまう状況をなくさなければならない。そのためには、終末部だけでなく、授業の各所で振り返りの場を設定したり、理解度を図ったりする必要がある。本研究では、③の段階を最終的な目標として捉え、特別支援教育の視点を基盤に、学級の子どもたち全員が、『わかる授業』を追究する。

## イ 『つながる授業』とは

学習において他者とかかわりながら学ぶことが大切である。考えを共有化したり、考えを深化したりするだけでなく、ともに活動することで学習に対して継続的に関わろうとする。学び合い活動は、話し合い活動だけでなく個別作業の協同化なども含めるものとする。課題解決の糸口が見つからない子どもも他者と学び合うことで、学習に参加することができ、友だちとつながる授業を工夫することが大切である。また、学び合う上で自らの疑問を投げかけたり、「わからないから、もう少し詳しく教えてほしい」と助けを求められたりする学級風土が必要となる。つまり、『つながる授業』とは、安心して学び合える学級風土の中で、お互いの理解が高まる授業である。

## ウ 『やる気がでる授業の工夫』とは

子どもたちが主体的な学習を継続していくためには、「面白そうだな。」「どうしてだろ。」などと、その学習への関心が維持されなければならない。さらに、子どもたちが学習に主体的に関わり続けるためには、学ぶ価値があり、魅力的な学習内容や課題であることも大切である。子どもたちの知的好奇心を揺さぶるような手立てや身近なものとの関連付けや教材との出会わせ方により、よりその学習に対しての意欲が高まる。すなわち、『やる気がでる授業』とは、子どもたちが「問い」を持ち、課題を解決し、さらに、生まれた課題を解決したり、身の回りの事象に活用しようとしたりする授業である。

## 4 めざす子ども像

- 自分の考えや思いをもち、ともに学び合う子ども
- 伝わるように話すため、必要に応じて情報や手段を選ぶことができる子ども
- 多様な考えを引き出し、自分の考えを見直したり、より良い考えに気付いたりと考えを練り上げる子ども
- 学び合いの楽しさ感じたり、考えが高まったことを自覚したりし、学習に意欲的に関わろうとする子ども

## 5 研究の仮説

- 課題や学習過程を理解していくことができれば、学び合い活動に参加し、学び合うことよきを実感でき、対話の楽しさや必要性を感じて、自分の考えを深め学び続けるであろう。
- 学習の目標を明確にし、効果的な提示の仕方を工夫したり、子どもの考えを十分生かしたりすれば、学習に対する意欲が高まり、追究的な学習活動ができ、主体的に学び続けるであろう。

## 6 研究の視点

### (1) 研究の視点の中での重点事項

- ①教材との出会わせ方や理解度を深める工夫・・・・・・・・わかる（知識・技能）
- ②学び合いの場の工夫・・・・・・・・つながる（思考力・判断力・表現力等）
- ③持続可能な探究を促す工夫・・・・・・・・やる気が出る（主体的に学習に取り組む態度）

### (2) 研究の視点の中での工夫

#### ○わかる授業の工夫

- ・ 取り組む学習内容がわかり、同じスタートラインで学習に取り組めるような導入の工夫
- ・ 図表や言葉などを使って、伝えたいことを可視化する学びあいや板書の工夫（視覚化）
- ・ 学習した内容を言語化する工夫
- ・ 自分の経験を元に例えを出したり、根拠を示したりする工夫
- ・ 自分の考えを再構築するための時間の確保
- ・ 繰り返しの工夫

#### ○つながる授業の工夫（共有化）

- ・ 学び合いの場の工夫（グループ、ペアなど少人数による学習形態の工夫）
- ・ タブレット端末の活用

- ・発言をつなげる授業の工夫、話す・聞く態度の習慣化
- ・疑問や「わからない」といえる学級風土の形成

### ○やる気ができる授業の工夫

- ・次時にも繋がる教材や教材との出会わせ方の工夫（比較、逆思考、ゲーム化など）
- ・「問い」を生み出す課題・発問の工夫
- ・ゆさぶりの工夫

## 研究の方法

### (1) 研究授業における研究の視点にそった授業の主張

研究教科を主に全教科とする。研究の視点にそった授業を構成し、その工夫点、主張点をプレゼンテーションで提示する。(10月30日)

### (2) アンケートによる子どもたちの変容の考察(授業後)

今日の学習をしてわかったこと(内容の振り返り)、学習をする上で、学び合いでの発見や理解が高まったこと(方法の振り返り)、次時への意欲や生活に活用する意気込みを学習後にロイロノートでアンケートをとり、その変容を確かめる。

単元の始めと終わりにも児童にアンケートをとり、変容を確かめる。

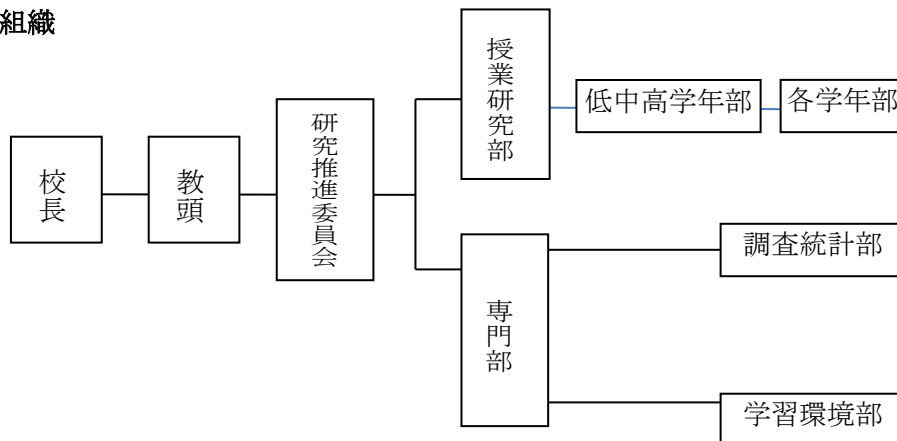
### (3) 写真・ビデオと文章による授業記録をもとにした子どもの学習活動等の検証

研究授業を写真またはビデオ、文章で記録し、学習効果を検討する。

### (4) 研究授業のまとめを作成することによる成果の一般化

研究授業の単元が終了した時点で、取り組みのまとめを作成する。そのことで研究の取り組みの成果を明らかにする。

## 研究の組織



- ① 調査統計部は、主にアンケート集計・分析を行う。
- ② 設営部は、校舎内外の学習環境の整備を行う。
- ③ 職員は、「授業研究部」「専門部」にそれぞれ1つずつ所属する。

## < 研究の構想 >

学校教育目標

夢をもち 人間性豊かで たくましく 創造的に 生き抜く児童

### 研究主題

子どもがわかる、つながる、やる気のでる授業の創造  
～自ら選び、考える子どもの育成を目指して～

#### めざす子ども像

- 自分の考えや思いをもち、ともに学び合う子ども
- 伝わるように話すため、必要に応じて情報や手段を選ぶことができる子ども
- 多様な考えを引き出し、自分の考えを見直したり、より良い考えに気付いたりと考えを練り上げる子ども
- 学び合いの楽しさ感じたり、考えが高まったことを自覚したりし、学習に意欲的に関わろうとする子ども

### 授業づくりの視点

#### わかる授業の工夫

- ・ 取り組む学習内容がわかり、同じスタートラインで学習に取り組めるような導入の工夫
- ・ 図表や言葉などを使って、伝えたいことを可視化する学びあいや板書の工夫 (視覚化)
- ・ 学習した内容を言語化する工夫
- ・ 自分の経験を元に例えを出したり、根拠を示したりする工夫
- ・ 自分の考えを再構築するための時間の確保
- ・ 繰り返しの工夫

## 主体的な学習活動

#### やる気のでる授業の工夫

- ・ 次時にも繋がる教材や教材との出会わせ方の工夫 (比較、逆思考、ゲーム化など)
- ・ 「問い」を生み出す課題・発問の工夫
- ・ ゆさぶりの工夫

#### つながる授業の工夫

- ・ 学び合いの場の工夫 (グループ、ペアなど少人数による学習形態の工夫)
- ・ タブレット端末の活用
- ・ 発言をつなげる授業の工夫、話す・聞く態度の習慣化
- ・ 疑問や「わからない」といえる学級風土の形成

#### 学習環境の工夫

- ・ ノート指導、学習訓練
- ・ 実態把握の工夫
- ・ 学級設営

地域や保護者の願い

児童の実態